



京都府立综合资料馆藏

『京童』序文

十四、五岁孩童般的个头,红色的嘴唇红色的指甲——这并非是《伊势物语》里提到过的京都的“都鸟”,而是京都的“京童”。就让我向这位京童打听一下吧。

我出生长在丹波国一个叫马路的村庄,本是个连平假名都不认识的无学之人,但却生性固执,把在棕树下捡到的果实硬当成是楸树的果实,还蠢到去和朋友争个对错;长到很大还以为丝竹指的是钓鱼用的鱼竿;又把顶着锅盖一样帽子的公卿当成近江筑摩的神灵的后裔。所谓不知为不知,不知道的就应该去向见识广的人请教。虽然在这里说些“今是而昨非”的话也并没有什么意义。

我希望摆脱“鲍鱼之肆”一样的故乡,去找寻我心目中的“芝兰之室”,于是辞去了乡士的职务来到了京都,去学些能把甘草和黄芪分清的医道。虽然也学习了一些关于病因的知识,但却发现想要把这些病根去除太难了,于是我又来到放着因为舂米而磨损得厉害の木杵、有捣药槌却不怎么用的一般人家,参加一些月例的俳会。但是俳谐对我来说同样是仰之弥高,而深奥的医道则更是深不可测,和歌之道也像那遥远的和歌浦一样,让我感觉到遥不可及。我不禁慨叹到底要靠哪个来糊口度日呢?

好歹也算来过京都,但回家乡去说些自己都没有亲眼见过的见闻实在是不合我的心意。《徒然草》里讲过一个仁和寺的和尚没有带向导而去游览石清水神社,最后无功而返的故事。所以这次我让一个看起来伶俐的少年带着我,把京都从里到外转了一个遍。少年说:希望你能把御所宏伟的建筑,还有神社、佛寺等等的样子都撰成文,再把这些名胜古迹的渊源也都一并记录下来。我推脱说自己只会写些杜撰之事。少年又半开玩笑地说:司马相如在《上林赋》中说“卢橘夏熟”,班固在《西都赋》中说“出比目”,这些都是追求文饰而罔顾事实的例子。所谓画虚构的鬼容易而画真实的狗却很困难。我这个黄口小儿希望的正是少一些虚饰,多纪录一些事实。等我们把各处游览完你就赶快回故乡去吧。文章有什么问题的话,责任就由我来负好了。于是我也就不得不拿起笔草就了这本书,并根据这般缘由,把这本书命名为“京童”。文章粗陋的责任就权且推给那个少年,而如果记述有什么错误的话,那就一定是我耳拙听错了,在此还望原谅我的愚钝。

中川喜雲撰

(翻译:张凌志)

(监修:小松谦·林香奈)

【現代語訳】

年齢は十四、五歳ぐらいの身体つきで、唇と爪先が赤い人は都鳥ならぬ都人の京童ですが、さあその京童に問うてみましょうか。

そもそも私は丹波の国の馬路という村に育ち、平仮名さえ読めず、見苦しいほどに頑固でした。椋の木の下で拾った実を榎の実を拾ったと強情に友達と言い争ったりしたことは愚かなことでした。ある程度の年齢になるまで「糸竹の遊び」ということを「魚釣竿」のことと思ひ込み、世間で「鍋取りの公家」と言っているのは「筑摩の神の末端・子孫」のことかと誤解していたことは情けないことでした。知らないことは知らないと正直に物知りの人に尋ねたいものです。良しとする今のわが身から過去の誤りを反省してもどうしようもないことではあります。

つまらない人々の集まる故郷を出て教養ある人々の許へ出向こうと思ひ、暇をもらって京に参りました。生薬の甘草と黄耆を嘸み分ける医道に入門し、病気の原因について勉強もしましたが、医学を修得することは難しく、医家ではなく擦り減った杵や擦り減らない槌が置いてあるような平凡な民家で催される月次の例会に出入りして俳諧に携わってみましたが、これも容易なことではありません。だからといって深い井戸のような医学の道を究めるには力が足りません。ここから遠い和歌の浦を見渡すことができないように、和歌の道も究めることはできません。どれを生業にして暮らしていると言い訳すればよいのでしょうか。

せめて故郷への土産話にするにしても、見たことのない京の見聞物語は不本意なことです。『徒然草』には仁和寺の法師が一人で石清水へ参詣して失敗したことが記されていますが、そのように一人では不安ですので、今回は利発そうな少年に案内をさせて、洛中の外まで見巡りましたところ、少年は「御所の立派な建造や神社・仏閣の様子を描き、それらの来歴を書き記してほしい」と求めました。私はいい加減なことしか書けないといって断りましたが、少年が言うことには、「司馬相如は「上林の賦」を作って「盧橘は夏に熟す」ということを記し、班固は「西都の賦」の中で「比目魚を釣り上げる」と書いています。これはすべて文章を潤色して事実に基づかず、真実を知らないのだとされています。世間では「想像上の鬼は描き易いが現実の犬は描きにくい」と言われます。ぼくは文飾は心掛けずに事実を書きたいと思ひます。あなたは各所を実際に見聞して早く故郷にお戻り下さい。文章の責任はぼくが取りましますから、などと少年が戯れながら言いますので、私は本書を書くはめになったのでした。ですからこの草稿を『京童』と名付けます。文章が拙いのは少年の年が若いことで口実にできますが、事実に関する誤りは私の聞き誤りですので、恐れながら賢くない私に免じてお許しのほどをお願いいたします。

中川喜雲 撰
(藤原英城・小松謙・林香奈)